令和四年度　後期日程　入学者選抜学力検査問題

日本・中国文学科　国語　解答例

一

問一　①疑う　②逃避　③苦悩　④変貌　⑤一端　⑥核心　⑦衝動　⑧燃焼　⑨基底　⑩迫られ

問二　芸術・創造とは、本来、現在に対して規範的に機能する過去や伝統を否定し、乗り越える活動である、ということ。

問三　芸術家は、民衆のもつ社会を改革しようとするエネルギーを受け、それを形にするところにその役割があり、それは先が分からない未来に向かって作品を形作る行為である。この、形のないものに形を与えられた芸術作品は、他の何ものにも先んじて存在するようになる、ということ。

問四　（1）　政治的、芸術的権威によって「衛」り、それに「衛」られる芸術という考え。

（2）　芸術において、「衛」り「衛」られるという関係は、創造がもつ否定や破壊的側面を阻害し、芸術家が自由に振る舞うことを妨げる、ということ。

二

問一　ア　酒などを召し上がり　イ　突然に　ウ　お出でになった　エ　引き出物をいただき

問二　よそへ行ったついでではなく、時平に会うためにわざわざ夜更けに訪れたのだという大将の来意を忠岑が代詠したということ。

問三　私（男）とひとり娘との結婚を忠岑が認め、期待させなさったこと

問四　男の求婚に対し、ひとり娘はまだ若いので結婚には早い、という忠岑の返事。

三

問一　①　かつて　②　と　③　たまたま　④　ここにおいて　⑤　ついに

問二　かつて父が自分と遊ぶために作ってくれたくぼみはまだ変わらずに残っているのに、父はすでになくなり、自分は下女に身を落としてしまっていることが悲しかったから。

問三　まさにわがむすめのれんひをやめ、まずむこをもとめてもってぜんれいのむすめをかすべきなり。

問四　どうか二代前の県令のお嬢さんを私の息子に嫁がせ、その後にあなたは別に良い婿を探し、あなたのお嬢さんを嫁がせて下さい。

問五　鍾離君や許君が自分の子供達の結婚よりも二代前の県令の娘の幸せを優先したように、自分のことよりも人として守るべき仁義を優先するということ。